

2022 年度（令和 4 年度）

# 自己評価 報告書

学校法人巨樹の会  
福岡看護専門学校第1科

本報告書は、学校法人巨樹の会 福岡看護専門学校第1科の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

2023 年7月1日

学校長 寺坂 禮治

副学校長兼第1科教務部長

淀川 めぐみ（学校評価実施責任者）

## 1. 自己評価の概要と実施状況

### 1) 自己評価の目的、方針

- ① 教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ② 自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、教育活動や学校運営等について客観性・透明性を高める。
- ③ 自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」、及び「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

### 2) 自己評価委員会委員(7名)

委員氏名	所 属
松原 孝俊	福岡看護専門学校 元学校長
淀川 めぐみ	福岡看護専門学校 副学校長 兼 第1科教務部長
松岡 泰裕	福岡看護専門学校 事務部長
萩尾 奈津子	福岡看護専門学校 第2科教務部長
濱野 敦子	福岡看護専門学校 第1科教務主任
野田 佳奈恵	福岡看護専門学校 第2科教務主任
佐藤 健一	福岡看護専門学校 事務副主任

\* 委員会は5月、11月、3月の年3回開催

### 3) 自己評価方法

令和4年度の教育活動・学校運営に全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について教職員個人による自己点検・自己評価の機会を設け、集約した結果を参照し自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について検討を行い、学校関係者評価結果とあわせて教育活動、学校運営に役立てる。

## 2. 自己評価の内容

### 1) 評価基準

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)  
 A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)  
 B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)  
 C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

### 2) 自己評価の内容

項目Ⅰ	教育理念、教育目的・目標、人材育成像
項目Ⅱ	学校運営
項目Ⅲ	教育活動
項目Ⅳ	学修成果
項目Ⅴ	学生支援
項目Ⅵ	教育環境
項目Ⅶ	学生募集
項目Ⅷ	財務
項目Ⅸ	法令等の遵守
項目Ⅹ	社会貢献、地域貢献

## 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

### 総括

教育理念に沿った教育目的・目標が学生便覧に明記されている。人材育成像は、学生便覧・ホームページなどに掲載している。保護者へは各学年 2 回開催する保護者会で本校の教育状況についての周知を図っている。関係業界に対しては指導者会議、関連病院の看護部長会議で周知を図り、実習施設には多くの協力を得た。卒業時満足度調査では「教育理念に沿った教育を受けられたと思うか」「教育方針や校風に共感することができ満足している」では 100%の学生が「とてもそう思う・そう思う」と答えており満足度は高かったと判断する。

閉校に伴い学生募集はないため、学校の情報発信はブログのみとなった。ブログ更新は担当者を決め月に 1~2 回実施し学校の様子を公開している。

現在の看護では、アセスメント力、判断能力、実践力が求められている。これら、看護師に必要な知識・技術・資質については、学生便覧・シラバスに明記している。実践力強化を目指し、専門分野・統合分野では、シミュレーターを活用した演習や技術試験・技術チェックを実施している。看護技術においては原理原則を学んだあと、事例を用い患者像をイメージできるようにしている。個別の状態や患者を取り巻く状況に目を向けることを習慣化できるように一貫して計画している。事例について適した援助を考え実践する教育方法を取り入れており、経験が浅いため気づかない視点について投げかけ共に考えている。

実習施設には実習要項を基に実習目標・内容・方法について説明している。実践力育成に関しては、主な実習先である福岡和白病院と年に 12 回の指導者会議を開催し、協力を得ている。他施設においても実習前・中・後に計画的に会議を開催し、指導方法等検討している。実習施設によっては提案や新人看護師の状況から、基礎教育で身につけていて欲しいことなど具体的に提案していただくこともあり、教員も意識して学生と関わっている。

今年度もコロナ禍のため、一部の実習が代替実習となった。特に、老年看護学実習(介護老人保健施設)、母性看護学実習に影響があった。成人看護学実習においては 11 月にシャドーイング研修を入れ、学びの補填をした。最終的に、令和4年度の実習のうち、臨地で実習できた割合は 2 年生が 63%。3 年生の実習は 94%強が臨地で実施できた。実習場所、方法は制限されたが、代替として実践活動外学習としてシミュレーション教育を含め目標達成に向けての計画・実施し、必要な単位は修得できた。卒業時満足度調査では「専門的な知識が身につく授業であり満足している」「専門的な技術が身につく授業であり満足している」「自分で考える力が身につく授業であり満足している」「専門職として役立つことを身につける機会があり満足している」は卒業生の 100%が「とてもそう思う・そう思う」と答え、平均点が 3.5~3.6/4 点満点となっており学生の学校への評価として、ニーズに応じていると考える。

また、学生に実施した卒業前教育目標達成度アンケート(自己評価)においては、20 項目の平均は 3.3 点/4 点満点と比較的高く、コロナ禍での学習・実習となったが本校の教育目標を達成し

ている自覚を持っているという結果となった。

#### 課題及び今後の改善方策

次年度も、実習施設と連携を図り、看護師に求められている能力向上に向けて具体的に指導していく。各学年の教育目標達成度を確認しているが、年度初めに計画を確実に伝えることで教員の意図的活動を示し、学生の意識を高めたい。

#### 小項目 I-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価: S

■コメント

学生便覧、ホームページ等で公表し周知している。

#### 小項目 I-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価: S

■コメント

学生便覧、ホームページ等で公表し周知している。また、保護者会、実習指導者会議等で説明している。

#### 小項目 I-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価: S

■コメント

主たる実習施設と毎月実習指導者会議を設け、学生支援について検討した。

学生に求められているアセスメント力、判断能力、実践力を育成するために、シミュレーターを用い、臨床場面をイメージした演習を取り入れている。代替実習においては目標達成のために教育方法工夫できた。

## 項目Ⅱ 学校運営

#### 総括

学校法人巨樹の会の事業目標・学校の事業方針をもとに管理目標を設定している。また、中間評価を実施し後期に向けての取り組み、改善点を検討している。その評価を教員に示し、周知を図

り年度末に評価し課題を明確にしている。また、今年度も管理目標を教員個人のキャリア別達成目標につなげている。この内容も中間評価・終了評価を実施し、面談にて管理者による達成度を確認している。

教職員の組織図のもと、会議、委員会等が設置されている。会議に関しては定期的(もしくは随時)に会議を実施し、報告・検討議案提起し、問題解決を図っている。委員会は各科から委員を選出し年度初めに活動目標・内容を決定し、年度末に評価している。この内容は合同教員会議を開き、教員全員に共有されている。

運営組織、意思決定機能は就業規則、学生便覧に示されている。また、自己点検・自己評価委員会、図書委員会などの委員会は、会議規程に沿って開催し、規定された組織に沿って運営している。委員会では、1・2科(委員会によっては事務職員も参加)から代表者を出し年間計画の立案・実施・評価を行っている。委員会で検討した結果は、規程通り会議録を作成保管し、合同教員会議で公表され教員間での共有を実施しており、科単独でなく、2つの科が問題を共有できるようにしている。学則に関する決定事項は学校運営会議、学校運営・教育課程に関することは管理会議で検討・決議され、教職員に周知される。

学事システムは、成績・欠課管理を行い、各学年で単位認定や卒業判定の資料として活用している。PC上で共有フォルダを活用し、各学年や実習に関することなど多数の情報を管理している。

メールについては大学の設立に伴い Google アカウントを全職員に付与されドライブを活用し情報共有や情報集約、オンライン会議の際の資料共有等大きく進展した。学校内のみではなく、関連校とも同様に活用し、業務の効率化につながっている。

#### 課題及び今後の改善方策

引き続き目標管理を実施し、PDCA サイクルを回し学校運営、教育力向上に努めていく。

#### 小項目 II-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

教職員の組織は明確になっており、決定事項の周知、組織員の意見の活用はなされている。

#### 小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S

■コメント

会議規程を策定し、意思決定機関を明確にしている。

諸規定は各科で保管しており、いつでも教職員が閲覧できるようにしている。

## 小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

共有フォルダや Google ドライブの活用により、学年運営・実習運営の効率化が進んだ。  
学事システムは学生情報、特に成績管理を中心に構築され、セキュリティ管理されている。  
また、マークシートリーダーを活用し模擬試験の分析、終講時試験やミニテストに活用している。  
看護師国家試験の正答率を確認し教育内容に反映させている。

## 項目Ⅲ 教育活動

## 総括

理念に沿った教育課程は学生便覧とシラバスに示し、2・3学年の始業時に説明した。以前はシラバスの教育内容が抽象的であったため、内部教員は講義回数ごとに教育内容を示すようにした。講義・演習・実習は目標に沿って設定出来ている。全学年の各科目内で事例設定による患者のイメージ化や状況把握、その状況から起こっていることをアセスメントする能力、必要なケア内容と対象に適した方法の選択などについて事例を活用したシミュレーション教育を実施している。シミュレーション教育はタスクレーニングとして基礎看護技術を実施、状況設定の中での看護や OSCE、また高齢者体験、VR ゴーグルを用いた幻聴体験などを実施した。

臨地実習においては臨地での看護実践が例年に比較して少なかった科目があり、臨地での状況に合わせた看護技術の実践やシナリオベースドトレーニングを実施した。また、動画教材の使用によりイメージの強化と患者に合わせた援助について学ぶ機会とした。卒業前技術演習は今年度も実施した。実習後に学生の看護技術経験から抽出した未経験項目、これまでの学生が希望していた技術項目、就職して1年が経過した卒業生に実施したアンケート結果等を基に項目を決定した。実施後の学生アンケート結果、評価が高かった。実習指導については担当教員が学生の個別の状況に合わせて、思考、技術力、人間関係構築など細かに指導している。また、アセスメント力、問題抽出能力が強化できるよう指導しており、ケア実施後は指導者同様、リフレクションを実施し、省察することで気づくことも多かった。

国家試験対策については、3年生は毎月模擬試験を実施し、実習がない期間である4月、7月は必修問題の強化を実施し、国試験頻出疾患の学習会を実施した。実習期間は実習科目・実習病棟と合致した過去問題に取り組み、学内日を活用し振り返りを実施した。夏期・冬期セミナー、個別学習会を実施した。2年生に対しては基礎知識習得のため国家試験を意識して学習方法や活用できるノートの作り方の指導、調べ学習、アセスメントが苦手な学生への個別指導等実施している。また、病理学の履修に合わせ過去問題を解く機会を作った。

卒業時満足度調査では「専門的な知識が身につく授業であり満足している」「専門的な技術が

身につく講義であり満足している」「専門職として役立つことを身につける機会があり満足している」では 100%が「とてもそう思う・そう思う」と答えている。自由記載の中で、コロナ禍でもより実践に近い方法で実習することができた、技術習得にモデル人形を活用した効果、実施施設から臨床事例を交えての講義など満足度が高かった。「実習での教育・指導体制に満足している」も100%が「とてもそう思う・そう思う」と答えており、自由記載には学生の状況を把握して親身な対応、メンタルサポートについて書かれていた。17項目の平均は3.5点/4点満点で昨年と同様に高かった。

卒業前教育目標達成度アンケートにおいて「生活の質向上を目指した看護実践」は平均3.4点/4点満点、「科学的根拠に基づいた安全・安楽なケア実践」に関しては平均3.2点/4点満点で、1名を除き「できるようになった」と認識している。「独創性豊かな看護実践」については平均点3.2点/4点満点で5名の学生があまりできるようになったとは思わないと答えている。理由は明確でないが、技術試験をしていない項目の到達度の不安、実践的な技術を磨くことが不十分などの意見があった。すべての総平均は3.2点/4点満点であり全体的には本校のカリキュラムで実践的な教育が実施されていると考える。

## 課題及び今後の改善方策

授業評価については学生へのフィードバックを実施できたものの、教員間の評価については実施できていない。

卒業前に実施した「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」の自己評価では、厚労省により示された到達度レベルに達していない学生が20%以上いた技術項目が明確となった。全教員で共有し、まずは「できる」ことを目指すよりも「経験する」機会を増やせるように対応を考えていきたい。

## 小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S

■コメント

学生便覧、シラバスに教育目標・内容を示している。学生の学びの指針となるよう授業回数ごとに内容・方法を記載するようにした。

## 小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A

## ■コメント

臨地実習においては、実習病棟で症例の多い疾患を持つ患者を設定し、事例を活用したシミュレーション教育を実施している。教科外活動では看護技術発表会を実施したり、高齢者体験セットの拘束具を装着して、高齢者の関節の動きを考えた方法や皮膚の脆弱性を考え、実践後に他グループや教員による評価を実施した。

また、看護師の看護実践能力に触れるような看護技術の見学・実践の機会を持てるようシャドー実習を取り入れている。

### 小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

## ■コメント

学生よりアンケート調査の協力を得て、全教員が授業評価を実施し、次年度への課題を明確にした。非常勤講師についても評価を実施し、結果を伝えている。学生に対して尺度評価結果(グラフ)と自由記載の内容を一定期間、教室に掲示しフィードバックした。

### 小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S

## ■コメント

年間計画を立て、2年生は病理学の履修に合わせて過去問題に取り組む機会を作っている。3年生は講義期間中には必修問題対策、教員による夏季・冬季セミナー、特別講義、成績に応じたグループ学習、個人学習会、模擬試験等を実施している。コロナ禍ではあったが、感染予防策を講じ対面学習を継続した。

### 小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

## ■コメント

関連分野や担当している科目、役割について専門性を高めるために、研修参加を促し3回分の研修費・交通費を支給制度がある。今年もコロナ禍であり、ほとんどオンライン研修であった。研修を受けた教員は多くはないが、特に新カリキュラムに関する内容など、年3回実施している教育研修時に伝達講習を実施した。例年実施している関連校4校での中央研修も3回実施され全教員が参加した。

カリキュラムチームと実習チームに分け経験の浅い教員は経験の長い教員に相談しながら業

務にあたっている。情報共有し、建設的なかわりができると思っている。

## 項目Ⅳ 学修成果

### 総括

就職支援は、学生の状況と希望を踏まえ主に担任が中心となり相談に乗りながら細やかな指導を心掛けた。履歴書の書き方や面接の受け方を個別指導した。オンライン面接の施設もあり、環境提供や面接指導を行った。卒業生は41名で、39名が就職希望で2名が助産学科への進学希望であった。それぞれ内定、合格をいただき、全員進路は決定した。

関連病院への就職は最終的に56%で目標の60%にはやや届かなかった。2年生に対しては進路ガイダンスを実施し、3月下旬に関連8病院の説明会(オンライン含む)を実施した。

卒業時満足度調査では「就職活動や進学に関する満足している」は平均3.5点/4点満点で全員が「とてもそう思う・そう思う」と答えおおむね満足していた。

国家試験の合格率向上への取り組みは年間計画を基に、学生の成績状況を見ながら支援方法を変更し対応したが、第112回の看護師国家試験の合格率は全国平均を下回る結果であった。卒業生満足度調査では、「国家試験への対策、学習支援に満足している」では、平均点3.8点/4点満点でとても高く、全員が「とてもそう思う・そう思う」と評価している。

退学者の低減については、2年生で1年次未履修科目のある学生に対して夏期・冬期休業中にほぼマンツーマンで集中講義を実施し、単位修得出来た。実習については、夏期休業中に追・再実習を実施した。ほぼマンツーマンで担当教員が指導にあたったが、残念ながら目標到達できなかった学生や、進路変更した学生もいる。

保護者とは適宜連携を図っている。コロナ禍のため、対面ではなく、電話やオンラインを利用していることが多い。学生カウンセリングは男女1名ずつ、月に計3回実施。学生自ら予約を取っているため、すべての学生を把握はしていないが、必要時連携を図っている。平均すると毎回3~4名の学生が利用している。

2年生は88%の進級率で、3年生の卒業率は87%となった。

学年間の交流については2年生の基礎看護学実習Ⅱの前の技術発表時、3年生も参加し、2年生へ指導・助言をしている。3年生に気軽に相談したりしている姿を見かける。12月には3年生のケーススタディ発表会に2年生も参加し意見交換ができた。

在校生の社会的な活躍について、1年生は入学時の個人調査表に記載してもらい高校までのボランティア活動などは把握している。入学後の把握はできておらず、年度初めの担任面談で把握する程度である。コロナ禍の社会的活動の位置づけが難しく、募集もほぼなくなっていたため、学生にも積極的に進めていなかった。しかし、令和5年2月に福岡県社会福祉協議会主催の“きずな”フェスティバルが開催され2年生7名が希望し参加した。その他、福岡和白病院に来ている献血に協力している学生が数名いる。

今年度も4月～5月にかけて前年度の卒業生に対し(看護師1年目が終了)、学校での学びを活かせたと思うこと、逆にもっと学んでおいた方が良く感じる事、自分の強みや基礎教育へ希望などアンケートをとった。卒業生からの意見を基に本校での教育内容について夏季教育研修の中で検討し、おおむね満足していると評価した。

#### 課題及び今後の改善方策

看護師国家試験について不合格者が出た。次年度は全員合格を目指し、何よりも学習の取り組みの動機付けと学習習慣の確保、モチベーションの向上・維持と共にメンタルケアが課題である。学生自身が危機感をもって自主的に取り組めるような関わりをし、学習時間の確保と個々に合わせた学習方法を早期に確立することが出来るように支援することが課題である。

#### 小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

就職希望者全員が就職した。

#### 小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S

■コメント

卒業時満足度調査では、国家試験対策、学習支援に満足していたが、看護師国家試験合格率は全国平均を下回った。

#### 小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

一人ひとりに合わせ根気強い支援を心掛けたが、退学者 11.4%であった。

#### 小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

#### ■コメント

卒業後の活動把握については、関連病院や実習施設に就職した卒業生の把握は行えている。ボランティア活動には1件参加した。

卒業後1年経過した卒業生へ本校の教育について自己評価を含めて調査し、本校の教育への満足度の把握と卒業後の状況把握が出来た。

## 項目 V 学生支援

#### 総括

学生支援についてはクラス担任を中心に全教員で行っている。卒業時満足度調査において就職・進学については履歴書・面接指導を実施した。過去の卒業生が採用試験を受けた際の試験内容・面接内容等はファイリングしており情報提供している。

学生状況の変化は、実習担当教員や学生にかかわった教員が把握し、担任に情報が集約される。また、日々行われる教務部長への報告内容により担任と相談し、面接を実施する。その時の様子と本人の希望から必要時にはカウンセリングにつなげる。毎年、新担任が4月に学生と個人面接をしている。学校生活、実習で気になる状況は、保護者に連絡をとり、家庭内での学生の状況を聞き指導に役立っている。個性豊かで色々なタイプの教員がいるため、かかわり方はそれぞれである。多様な価値観を持ちつつも一枚岩となって学生支援ができるようにする。目立って変化のある学生への関りだけでなく、多くの学生が、教員たちは自分に興味を持っていると感じられるよう、日常から全員に声をかける意識を持って関わっていくことは継続していきたい。

カウンセリングは、月3回(男性カウンセラー 2回、女性カウンセラー 1回)を実施している。基本的なシステムとしては学生個人でカウンセラーに予約メールを送り返事があって予約完了という流れである。

卒業時満足度調査では、「教職員の学生への対応に満足している」の平均は 3.7 点 / 4 点満点、「カウンセリングなど学生のサポート体制がとられており満足している」の平均は 3.4 点 / 4 点満点で全員が「とてもそう思う・そう思う」と評価している。自由記載には親身になって相談に乗ってくれた、優しく丁寧にサポートしてくれたと複数の学生が回答していた。

保護者会は2年次・3年次の4月・11月と各学年で2回ずつ実施し、年に2回、クラス費会計報告、単位修得表を保護者に郵送している。

奨学金の窓口は、事務であり、学生の状況に応じて対応している。2学年総数 96 名中、日本学生支援機構奨学金の貸与や給付金を受けている学生は 62 名(65%)、県やその他の奨学金貸与者は2名(2%)、高等教育修学支援新制度を利用している学生は 22 名(22%)である。

災害発生時には、対応が必要か判断するために、被害状況を把握しているが、現在まで対象となった学生はいない。学生アパート(個別ワンルーム)は、1棟あり、2年生は5名入居し、3年生の入居はない。

**課題及び今後の改善方策**

引き続き、学生一人ひとりの状況に合わせて学習支援、進路指導を実施していく。

**小項目 V-1**

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S

**■コメント**

進路ガイダンス後、担任を中心に就職先決定の相談、試験までの指導等を行っている。昨年に引き続き、オンライン面接の施設も多く、面接指導や面接環境確保への支援を行った。就職希望者全員の就職先が決定するまで支援した。

**小項目 V-2**

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

**■コメント**

卒業時満足度調査結果では、教職員の学生への対応、カウンセリングなどのサポート体制に対して満足度が高かった。

**小項目 V-3**

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S

**■コメント**

保護者会以外に、必要時、個別に学生支援に向けて情報交換や支援方法の相談を電話もしくは対面にて行っている。

**小項目 V-4**

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S

**■コメント**

募集が停止となり特に活動していない。

**小項目 V-5**

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S

**■コメント**

奨学金や学費相談担当の事務担当を設けており、教員と連携してサポートしている。急な過程状況の変化においても、相談に乗り対応している。

**項目 VI 教育環境****総括**

教育環境についてはオンライン授業を見据えて整えており、問題なく教育実践ができた。令和健康科学大学の新校舎を使用 ICT 教育の環境は整っているが、情報処理室の PC の OS が古く起動、動作共にかなり時間がかかり、別途 PC を貸し出すなど対応をした。学生コピー機も特に問題はなく、入学時にコピーカードを配布し学習に役立てることができている。入館は IC カードシステムが導入され、安全面につながっている。

図書館は蔵書数が増え、学習環境、文献検索等、学習を促進する環境となった。特に国家試験前には学習しやすい環境で19:45迄利用でき好評であった。

コロナの感染拡大状況によっては、学生の状態によっては別教室を使用し、隔離しリスク管理を行った。

卒業時満足度調査では「パソコン・インターネット等の情報設備や利用環境に満足している」は平均3.0点/4点満点である。図書については「学習するための図書の蔵書に満足している」では、平均3.7点/4点満点であり、これまでで一番高かった。学生や教員の希望図書は図書委員会で検討され今年も購入した。また、

教材についての満足度は「技術習得のための教材・教具などの学習環境に満足している」では、平均3.6点/4点満点であった。モデル人形の使用など積極的に進めており、必要時、大学シミュレーションセンターを使用している。次年度も継続したい。

実習の意義・位置づけは、実習要項に記載している。実習要項は、実習ごとに作成しており、その内容に実習指導要領を入れている。内容の周知は、実習指導者会議で行っている。実習記録の指導よりも臨地での看護実践の介入・指導を主に関わっていただいている。また、実習施設では実習指導担当副部長・師長がおり、さらに各病棟に実習指導者を選定してもらっていることから問題共有がしやすく、学生の状況に合った素早い解決につながっている。

災害時の行動は、学生便覧に掲載し、毎年9月に開催している防災訓練時に行動を再確認、防災教育を実施していた。今年度の防災訓練は本校単独で9月26日に計画したが、雨天のため、実際に避難はしなかった。内容を変更し火災時と地震時の対応 DVD を視聴した。自分が医療関係者になった時の動きをイメージする必要性を感じたようである。

**課題及び今後の改善方策**

COVID-19 感染の終息まではまだ時間がかかるため、医療従事者として自覚を持った行動と学

校としての環境整備を継続していく。

PC が古くなってきているため、使用に対し、学生が困らないように貸出等対応していく。

実際に火災や地震等が発生した場合、発生場所により、より安全に早く避難するための方法・避難場所等どうしたらよいか災害時の対応等を3校で共通のものを検討していく必要があり、次年度検討をする予定である。

#### 小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

令和健康科学大学、福岡和白リハビリテーション学院と同施設・設備を使用しているが、調整を図り、教育効果があげられるように整備できている。

#### 小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S

■コメント

実習指導体制については各実習施設と実習前、実習中、実習後に検討し、学生の学びを保障している。実習指導者と教員の連携は十分に図れている。

#### 小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

災害時の行動については、学生便覧に記載し、学生に伝えている。緊急連絡ツールも整っている。教員に関しては SNS、連絡網を作成している。災害時の対応等を3校で共通のものを検討していく必要がある。

## 項目 VII 学生募集

### 総括

募集停止のため該当なし

### 課題及び今後の改善方策

該当なし

#### 小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: —

■コメント

該当なし

#### 小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: —

■コメント

該当なし

## 項目 VIII 財務

### 総括

中長期的な計画が示されているが、閉校が近いため学生数が減っているが、妥当な収支であると考えている。会計監査は定期的に受けている。

予算と決算については、管理部門で確認がなされている。教育事業の方針を基に、各科から希望を出し、予算が立てられており必要な教材等は購入されている。

学校法人巨樹の会本部にて各校からの予算が集約され、学校法人として許可されている。収支バランスも示され公表されている、

### 課題及び今後の改善方策

特になし

#### 小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S

■コメント

中長期的な計画の下、学校運営がなされ、示された収支は妥当である。

#### 小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S



## ■コメント

事業計画に基づき各科から購入希望を受け妥当性を確認し、予算を立てている。決算の管理は管理部門で確認されており、収支バランスが示されている。理事会・評議員会で承認されている。

## 小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S

## ■コメント

財務の会計監査は実施されており、収支に問題はない。

## 項目Ⅷ 法令等の遵守

## 総括

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出をおこなっている。また、自己点検・自己評価を行い、教育水準の向上に努めている。

指導ガイドラインに基づき、単位修得をはじめとした適切な教育を行い、学校運営をしている。ハラスメント防止対策として、ハラスメント防止規程が示され、12月には撲滅月間として啓蒙活動が行われた。毎年ハラスメントに関するアンケートが実施され、その結果は全職員に配布されている。ハラスメント委員会に上がった事案については関係者・第三者により調査され、適切に対応されている。

個人情報保護に関して、学生には作成したガイドラインをもとに、実習前ごとに実施している。学生は、実習前と卒業時に個人情報に関する誓約書を書く。受け持ち患者には同意書を取り、この時に、情報の適切な取り扱いを指導し、他にも機会をとらえて指導を行っている。

SNSにおける個人情報の管理について研修を計画し、各実習前には過去に起こった倫理的問題、特に守秘義務・個人情報保護について具体例を示しグループワークをした。SNSの問題は起こらなかった。

個人情報の記載された資料は、梱包し処分することで、情報流出を防止している。職員の入職、退職後も職務中知り得た情報の保護について誓約書を交わしている。

## 課題及び今後の改善方策

次年度は閉校に向けて手続き等を確実に実施する。

## 小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

## ■コメント

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己評価・学校関係者評価を実施しており、適正な運営はできている。

## 小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S

## ■コメント

教職員、学生ともに個人情報保護のガイドラインに則り、個人情報保護に努めることができている。

## 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

## 総括

福岡和白病院との連携として、実習指導者研修(今年度も2日のところ1日に縮小)の講師として1科教員が2名協力した。高齢者体験キッドやベビー人形の貸し出しは行っている。2号館は3階シミュレーションセンターや1階メインホールは施設貸し出しを行っている。

その他として、特定分野の実習指導者研修の講師派遣が1名、令和健康科学大学看護学科の模擬患者として1名派遣した。

令和5年2月に福岡県社会福祉協議会主催の“きずな”フェスティバルが開催され2年生7名が希望し参加した。その他、福岡和白病院に来ている献血に協力している学生が数名いる。

## 課題及び今後の改善方策

学生のボランティア活動については奨励したいが、情報量が少ない。COVID-19 感染状況によりや社会のニーズを見て、情報量を得て、学生に提示する機会を増やす必要がある。

献血協力などできることを奨励していく。

## 小項目 Ⅹ-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A

## ■コメント

施設や教材等貸し出しは事務が窓口になっている。要請があった場合、人的な貢献もしている。

## 小項目 Ⅹ-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A

■コメント

社会状況に合わせて奨励していく